

群馬県の犬猫「収容ゼロ」を目指す活動

NPO法人群馬わんにゃんネットワーク

NPO法人群馬わんにゃんネットワークは、犬猫の「殺処分ゼロ」ではなく、「収容ゼロ」を目指しています。犬や猫と飼い主、そして地域の人々が共生できる社会を目標に、適正飼育に関する啓発や避妊・去勢手術の推進、行き場をなくした犬猫に新たな「あたたかい家族」を探すプロジェクトなどを行っています。

【活動背景】

群馬わんにゃんネットワークは長年シェルターを持たず、個人の預かりボランティアが自宅で犬や猫を保護して、人に馴染み、里親へとつないでいました。当初は「殺処分ゼロ」を目指して活動をしていた本団体ですが、収容される犬猫がいる限り、いくら譲渡を成立させても結局は殺処分される子たちを減らすことができないという現実と直面し、「収容ゼロ」を新たな方針として打ち立てました。



リフォームされた保護部屋

【助成金の用途・活動結果】

当財団の助成金は、保護猫用シェルターの改修工事に充てていただきました。2階の一間が3部屋にリフォームされ、猫たちがのびのび過ごせる環境が整いました。さらに隔離が必要な病気を抱えた猫のための個室もでき、安全性が向上しました。これまで、シェルターの収容力的に保護猫の受け入れが厳しくなりつつありましたが、部屋が増えたことで、その問題も大幅に軽減されました。1年間で、計12匹の猫が里親のもとへと巣立っていくことができました。

【団体からのメッセージ】

シェルター2階はワンフロアーだったため、これまでボランティアの手作りの脱走防止対策やドア、仕切りで対応しておりました。どうしても猫さんたちの力や智恵が上を行き、壊れてしまう事もたびたびありましたが、今回助成金をいただいた事で、部屋を3つに仕切る事が出来、それぞれの部屋で落ち着いて過ごす事が出来ています。多頭飼育崩壊現場や、TNR現場で、どうしても戻せない子に遭遇することが多く、清潔で落ち着けるシェルターは命の砦だと感じております。

【活動目的】

近年、多頭飼育崩壊が立て続けに発生したことにより、多数の猫が行き場をなくし、処分直前まで追いやられていました。そのため、築25年の戸建て民家をシェルターとして使用することになりましたが、多数の猫が集まるとどうしても相性の悪い個体同士が争いを起こしてしまうという状況でした。そこで、シェルターの部屋間に仕切りを設置したり、脱走防止用の網戸の補強することによって、保護猫が快適に過ごせる環境を整えることが今回の活動の目的でした。

